兵庫県立淡路医療センター
内科専門研修プログラム

新専門医制度　内科領域
2027 年度版

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』
『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、
日本内科学会 Web サイトにてご参照ください.

兵庫県立淡路医療センター
HYOGO PREFECTURAL AWAJI MEDICAL CENTER

目 次

1. 理念・使命・特性 1
2. 募集専攻医数【整備基準 27】 3
3. 専門知識・専門技能とは 4
4. 専門知識・専門技能の習得計画 4
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】 7
6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】 7
7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 8
8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】 8
9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】 9
10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】 10
11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】 10
12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】 10
13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】 12
14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】 13
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】 13
16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】 14
17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 15
18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム異動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】 15
19. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群 16
    1）専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】 18
    2）専門研修施設（連携施設）の選択 18
    3）専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】 18
    4）専門研修基幹施設 19
    5）専門研修連携施設 21
20. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会 73
21. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム　専攻医研修マニュアル 74
22. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム　指導医マニュアル 81
    別表 1 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表 .. 84
    別表2兵庫県立淡路医療センター内科専門研修週間スケジュール（例） 85

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1） 本プログラムは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院である兵庫県立淡路医療センターを基幹施設として，兵庫県淡路医療圏・近隣医療圏を中心とした連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います．

2） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します．

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの要素を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学びます．その際，単なる繰り返しではなく，疾患や病態によって，特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします．

使命【整備基準 2】

1） 兵庫県淡路医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，1）高い倫理観を持ち，2）最新の標準的医療を実践し，3）安全な医療を心がけ，4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います．

2） 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います．

3） 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います．

4） 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います．

特性

1） 本プログラムは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院である兵庫県立淡路医療センターを基幹施設として，兵庫県淡路医療圏，近隣医療圏を中心とした連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は原則基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間になります．

2） 兵庫県立淡路医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

3） 基幹施設である兵庫県立淡路医療センターは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4） 基幹施設である兵庫県立淡路医療センターあるいは連携施設での最初の2年間で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．そして，専攻医2年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表」参照）．

5） 兵庫県立淡路医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修期間中の1年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

6） 基幹施設である兵庫県立淡路医療センターでの2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表」参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，1）高い倫理観を持つこと，2）最新の標準的医療を実践すること，3）安全な医療を心がけること，4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

2）内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科（Generality）の専門医

4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と総合内科的なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．

そして，兵庫県淡路医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1）～7）により，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年最大 10 名とします．

1） 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムに所属しているのは現在 16 名です．

2） 剖検体数は 2023 年度 7 体，2024 年度 10 体，2025 年度 7 体です．

表．兵庫県立淡路医療センター診療科別診療実績

2025 年実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	1，726	22,194
循環器内科	1，671	17,616
血液内科	158	5,708
糖尿病・内分泌内科	46	13,174
呼吸器内科	601	8,023
脳神経内科	195	4,175
救急科	0	4,618

3） 上記以外の内科系患者は，内科全体で対応しており，担当した診療科の患者としてカウントしていますので，外来・入院ともに十分な症例を経験可能です．

4） 令和 4 年度より，糖尿病・内分泌内科が追加され，29 診療科となりました．

5） 5 領域の常勤の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（P.16「兵庫県立淡路医療センター内科専

門研修施設群」参照）

6） 専攻医 3 年目に研修する連携施設には，高次機能・専門病院 1 施設，地域基幹病院 18 施設，大学病院本院 3 施設，大学関連病院群 3 施設の計 25 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です．

7） 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です．

3. 専門知識・専門技能とは

1） 専門知識【整備基準4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病及び類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます．

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療法」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします．

2） 専門技能【整備基準5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません．

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1） 到達目標【整備基準8～10】（P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）1年:

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については症例指導医の評価と承認が行われます．
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します．担当指導医は登録された病歴要約の評価を行います．
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます．
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修(専攻医)2年:

- 症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち, 通算で少なくとも 45 疾患群, 80 症例以上の経験をし, J-OSLER にその研修内容を登録します.
- 専門研修修了に必要な病歴要約 29 編をすべて登録して担当指導医の評価を受けます.
- 技能:研修中の疾患群について, 診断と治療に必要な身体診察, 検査所見解釈, および治療方針決定を指導医, Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
- 態度:専攻医自身の自己評価と指導医, Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います. 専門研修(専攻医)1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修(専攻医)3年:

- 症例:主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し, 200 症例以上を経験することを目標とします. 修了認定には, 主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の症例経験と計 120 症例以上(外来症例は1割まで含むことができます)を経験し, J-OSLER にその研修内容を登録します.
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを症例指導医が確認します.
- 既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は, 所属するプログラムにおける一次評価を受け, その後, 日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受けます. 査読者からの評価を受け, 形成的により良いものへ改訂します. 但し, 改訂に値しない内容の場合は, その年度の受理(アクセプト)を一切認められないことに留意します.
- 技能:内科領域全般について, 診断と治療に必要な身体診察, 検査所見解釈, および治療方針決定を自立して行うことができます.
- 態度:専攻医自身の自己評価と指導医, Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います. 専門研修(専攻医)2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします. また, 内科専門医としてふさわしい態度, プロフェッショナリズム, 自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し, さらなる改善を図ります.

専門研修修了には, すべての病歴要約 29 症例の受理と, 少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします. J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

兵庫県立淡路医療センター内科施設群専門研修では,「研修カリキュラム項目表」の知識, 技術・技能修得は必要不可欠なものであり, 修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設2年間＋連携施設1年間)とするが, 修得が不十分な場合, 修得できるまで研修期間を1年単位で延長します. 一方でカリキュラムの知識, 技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識, 技術・技能研修を開始させます.

2） 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院，そして退院後の通院まで，可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態，社会的背景，療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，症例発表を通じて，情報検索能力やコミュニケーション能力を高めます．

③ 内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週1回，1年以上担当医として経験を積みます．

④ 救命救急センターの内科救急（平日夕方から深夜、休日など）で内科領域の救急診療の経験を積みます．

⑤ 当直医として経験を積みます．

⑥ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

3） 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応，2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4）医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する事項，5）専攻医の指導・評価方法に関する事項などは，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会（基幹施設 2024 年度実績 6 回）
※内科専攻医は年に2回以上受講します．

③ CPC（基幹施設 2024 年度実績 8 回）

④ 研修施設群合同カンファレンス（2024 年度：未開催）

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：淡路医師会勉強会，救急・集中治療セミナー，淡路循環器病研究会，消化器病症例検討会など；2024 年度実績 7 回）

⑥ JMECC 受講（基幹施設：2025 年度1回/年開催）
※内科専攻医は必ず専門研修2年目までに1回受講します．

⑦ 内科系学術集会7.「学術活動に関する研修計画」参照

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会など

4） 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例だが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある多肢選択問題形式（MCQ）

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など

5） 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します．

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．
- 専攻医による逆評価を入力して記録します．
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します．
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載します（P.16「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群」参照）．

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である兵庫県立淡路医療センター臨床研修・研究センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．

② 科学的な根拠に基づく診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）．

③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．

④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解に資する研究を行う．

⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨くといった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養する．

⑥ 臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う．

⑦ 後輩専攻医の指導を行う．

⑧ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．指導することにより、自らも学び、指導力を養う．

7．学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）．
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．

② 経験症例をもとに文献検索を行い，症例報告を行います．

③ 臨床的疑問を特定して臨床研究を行います．

④ 内科学に関連する基礎研究を行います．

上記を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います．

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します．

8．コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます．

内科専門医として必要とされる高い倫理観と社会性を獲得します．

① 患者とのコミュニケーション能力

② 患者中心の医療の実践

③ 患者から学ぶ姿勢

④ 自己省察の姿勢

⑤ 医の倫理への配慮

⑥　医療安全への配慮

⑦　公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）

⑧　地域医療保健活動への参画

⑨　他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩　後輩医師への指導

※　教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます．

9．地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群研修施設は兵庫県淡路医療圏，近隣医療圏を中心とした医療機関から構成されています．

兵庫県立淡路医療センターは，兵庫県淡路島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

様々な将来像を描く内科専攻医の多様なニーズにあった研修環境を提供するために，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムでは教育環境の充実した多くの病院と連携を組んでいます．兵庫県内では兵庫県立がんセンター，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，兵庫県立加古川医療センター，加古川中央市民病院，明石医療センター，北播磨総合医療センター，兵庫県立丹波医療センター，甲南医療センター，神戸赤十字病院，神戸労災病院，赤穂市民病院，三田市民病院，神戸市立医療センター西市民病院，県外では大阪府の北野病院，淀川キリスト教病院，高槻病院，済生会中津病院，奈良県の奈良県総合医療センター，岡山県の倉敷中央病院，福島県の総合南東北病院などと連携しています．いずれも各医療圏の地域基幹病院として高度な医療を担っている病院です．さらに，神戸大学医学部附属病院，徳島大学病院，昭和医科大学病院などの大学病院本院や昭和医科大学藤が丘病院，昭和医科大学横浜市北部病院，昭和医科大学江東豊洲病院といった大学関連病院群とも連携しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，兵庫県立淡路医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群（P.16）は，兵庫県淡路医療圏，近隣医療圏を中心とした医療機関から構成していますが，兵庫県立がんセンターと神戸大学医学部附属病院以外は，実質的に淡路島の官舎からの通勤は困難であり，勤務地の近隣に住居を確保する必要があります．官舎の使用や住居費の補助については病院ごとに異なりますので，適宜確認していただく必要があります．中間地に居住することで，1年間に2-3つの連携病院を選択することは可能です．

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

兵庫県立淡路医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています．

兵庫県立淡路医療センター内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます．

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

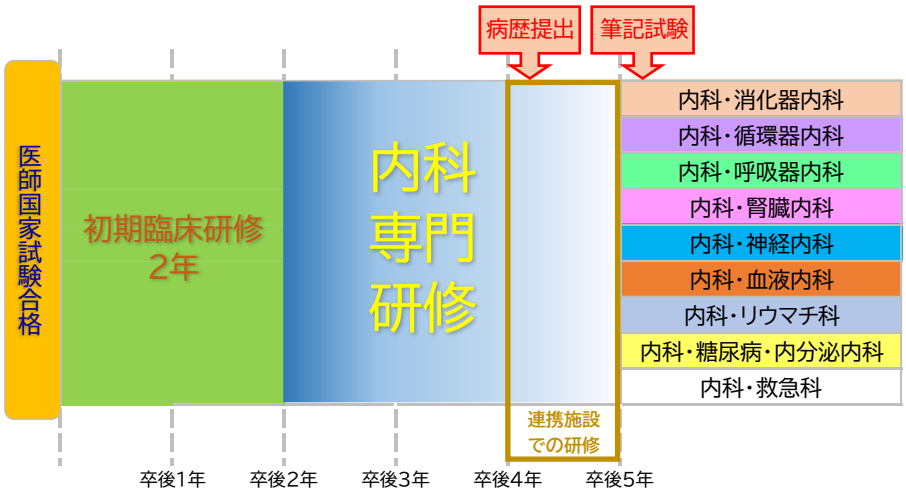


図1. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である兵庫県立淡路医療センター内科で，1年間の専門研修（専攻医）を行います．図 1 は例であり，連携施設での研修は1-3年目のうち，いずれの年度でも可能です．各連携施設での研修は最低で3か月，最高で 12 か月です（図1）．

なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です．

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

（1）兵庫県立淡路医療センター臨床研修・研究センターの役割

- 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います．
- 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します．
- 3か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．
- 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴ

リー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

- 2か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 年に複数回(8月と2月, 必要に応じて臨時に), 専攻医自身の自己評価を行います. その結果は J-OSLER を通じて集計され, 1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って, 改善を促します.
- 臨床研修・研究センターは, メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を毎年複数回(8月と2月, 必要に応じて臨時に)行います. 担当指導医, Subspecialty 上級医に加えて, 看護師長, 看護師, 臨床検査・放射線技師・臨床工学技士, 事務員などから, 接点の多い職員5人を指名し, 評価します. 評価票では社会人としての適性, 医師としての適正, コミュニケーション, チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します. 評価は無記名方式で, 臨床研修・研究センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し, その回答は担当指導医が取りまとめ, J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません). その結果は J-OSLER を通じて集計され, 担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します.

(2)専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医1人に1人の担当指導医(メンター)が兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
- 専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し, 担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします. この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- 専攻医は, 1年目専門研修修了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群, 40 症例以上の経験と登録を行うようにします. 2年目専門研修修了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群, 80 症例以上の経験と登録を行うようにします. 3年目専門研修修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群, 120 症例以上の経験の登録を修了します. それぞれの年次で登録された内容は都度, 担当指導医が評価・承認します.
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り, J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修・研究センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します. 専攻医は Subspecialty の上級医と面談し, 専攻医が経験すべき症例について報告・相談します. 担当指導医と Subspecialty の上級医は, 専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう, 主担当医の割り振りを調整します.
- 担当指導医は Subspecialty の上級医と協議し, 知識, 技能の評価を行います.
- 専攻医は, 専門研修(専攻医)2年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し, J-OSLER に登録します. 担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し, 内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し, 形成的な指導を行う必要があります. 専攻医は, 内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき, 専門研修(専攻医)

3年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します. これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3)評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い, 基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します.
その結果を年度ごとに兵庫県立淡路医療センター内科専門研修管理委員会で検討され, 統括責任者が最終承認を行います.

(4)修了判定基準【整備基準 53】

1)担当指導医は, J-OSLER を用いて研修内容を評価し, 以下ⅰ)～vi)の修了を確認します.

i) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し, 計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができます)を経験することを目標とします. その研修内容を J-OSLER に登録します. 修了認定には, 主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで含むことができます)を経験し, 登録済み(P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件(「疾患群」「症例数」「病歴提出数」)一覧表」参照).

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)

iii) 所定の2編の学会発表または論文発表

iv) JMECC の受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し, 社会人である医師としての適性

2)兵庫県立淡路医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は, 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し, 研修期間修了約1か月前に兵庫県立淡路医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5)プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」, 「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は, J-OSLER を用います. なお, 「兵庫県立淡路医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】(P.74)と「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】(P.81)と別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

1)兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修管理委員会との連携を図ります. 内科専門研修プログラム管理委員会は, 統括責任者(副院長, 循環器内科部長), プログラム管理者(呼吸器内科部長)(ともに指導医), 事務局代表者, 内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者(診療科科長)および連携施設担当委員で構成されます. また, オブザーバーとして専攻医

を委員会会議の一部に参加させます(P.73 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照). 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を兵庫県立淡路医療センター臨床研修・研究センターにおきます.

ii) 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群は, 基幹施設, 連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します. 委員長1名(指導医)は, 基幹施設との連携のもと活動するとともに, 専攻医に関する情報を定期的に共有するために, 毎年1月に開催する兵庫県立淡路医療センター内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設, 連携施設ともに, 毎年4月 30 日までに, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

① 前年度の診療実績

a)病院病床数, b)内科病床数, c)内科診療科数, d)1か月あたり内科外来患者数, e)1か月あたり内科入院患者数, f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績, b)今年度の指導医数/総合内科専門医数, c)今年度の専攻医数, d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動

a)学会発表, b)論文発表

④ 施設状況

a)施設区分, b)指導可能領域, c)内科カンファレンス, d)他科との合同カンファレンス, e)抄読会, f)机, g)図書館, h)文献検索システム, i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j)JMECC の開催.

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します. 指導者研修(FD)の実施記録として, J-OSLER を用います.

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を遵守することを原則とします.

専門研修期間中, 2年間は基幹施設である兵庫県立淡路医療センターの就業環境に, 1年間は連携施設の就業環境に基づき, 就業します(P.16「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群」参照).

基幹施設である兵庫県立淡路医療センターの整備状況:

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- 兵庫県立淡路医療センター, 会計年度任用職員(常勤医師)として労務環境が保障されています.
- メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります.

・ ハラスメント委員会が兵庫県立淡路医療センターに整備されています.
・ 女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています.
・ 敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については, P.16「兵庫県立淡路医療センター内科専門施設群」を参照. また, 総括的評価を行う際, 専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い, その内容は兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告するが, そこには労働時間, 当直回数, 給与など, 労働条件についての内容が含まれ, 適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います. 逆評価は年に複数回行います. また, 年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には, 研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医, 施設の研修委員会, およびプログラム管理委員会が閲覧します. また集計結果に基づき, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムや指導医, あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて, 専攻医の逆評価, 専攻医の研修状況を把握します. 把握した事項については, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお, 研修施設群内で何らかの問題が発生し, 施設群内で解決が困難である場合は, 専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・ 担当指導医, 施設の内科研修委員会, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムを評価します.
・ 担当指導医, 各施設の内科研修委員会, 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし, 自律的な改善に役立てます. 状況によって, 日本専門医機構内科領域研修委員会の支援, 指導を受け入れ, 改善に役立てます.

3） 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

兵庫県立淡路医療センター臨床研修・研究センターと兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，日本専門医機構のスケジュールに準じ，兵庫県立淡路医療センターの website の兵庫県立淡路医療センター後期研修医募集要項（兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，翌年1月の兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．

（問い合わせ先）兵庫県立淡路医療センター　臨床研修・研究センター

E-mail ： awaji_hos@pref.hyogo.lg.jp　　HP ： https://www.awajimc.jp

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム修了要件を満たしており，かつ休職期間が6ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1日8時間，週5日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません．

19. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群

表 1.各研修施設の概要(2026 年 4 月現在,剖検数:2024 年度)

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	兵庫県立淡路医療センター	402	135	6	13	11	10
連携施設	兵庫県立加古川医療センター	307	123	9	18	13	4
連携施設	兵庫県立がんセンター	360	121	5	22	17	0
連携施設	神戸大学医学部附属病院	934	272	11	104	102	14
連携施設	神戸労災病院	314	156	7	9	11	3
連携施設	兵庫県はりま姫路総合医療センター	736	306	11	46	38	2
連携施設	明石医療センター	392	215	6	12	20	3
連携施設	加古川中央市民病院	600	209	10	43	33	10
連携施設	北播磨総合医療センター	450	150	9	24	23	8
連携施設	兵庫県立丹波医療センター	320	130	9	12	12	8
連携施設	徳島大学病院	671	154	7	47	51	6
連携施設	甲南医療センター	461	276	8	28	24	6
連携施設	北野病院	685	305	9	13	23	7
連携施設	昭和医科大学病院	815	359	10	70	49	29
連携施設	昭和医科大学藤が丘病院	584	248	5	29	35	16
連携施設	昭和医科大学横浜市北部病院	689	混合病棟	4	13	13	10
連携施設	昭和医科大学江東豊洲病院	400	混合病棟	4	20	24	10
連携施設	奈良県総合医療センター	490	192	9	25	22	9
連携施設	神戸赤十字病院	310	128	7	21	21	4
連携施設	淀川キリスト教病院	581	265	11	29	35	5
連携施設	総合南東北病院	461	88	5	10	8	7
連携施設	高槻病院	477	188	11	22	16	2
連携施設	赤穂市民病院	360	100	2	6	4	5
連携施設	三田市民病院	300	94	4	9	9	2
連携施設	倉敷中央病院	1172	445	10	73	54	12
連携施設	神戸市立医療センター 西市民病院	358	154	10	18	21	6
連携施設	大阪府済生会中津病院	570	326	9	25	23	1
研修施設合計		13,263	4,731	191	745	688	198

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
兵庫県立淡路医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立加古川医療センター	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
兵庫県立がんセンター	○	○	△	△	×	×	○	○	×	△	×	×	×
神戸大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
加古川中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北播磨総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立丹波医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
徳島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
昭和医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
昭和医科大学藤が丘病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
昭和医科大学横浜市北部病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
昭和医科大学江東豊洲病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△	△
奈良県総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸赤十字病院	△	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	△	○
淀川キリスト教病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合南東北病院	○	○	○	△	○	△	○	△	○	○	△	○	○
高槻病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△	○	○
赤穂市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三田市民病院	○	○	○	○	△	○	△	○	×	○	△	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター西市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を3段階(○, △, ×)に評価しました.
〈○:研修できる, △:時に経験できる, ×:ほとんど経験できない〉

1）専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群研修施設は兵庫県淡路医療圏，近隣医療圏を中心とした医療機関から構成されています．

兵庫県立淡路医療センターは,兵庫県淡路島医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

様々な将来像を描く内科専攻医の多様なニーズにあった研修環境を提供するために，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムでは教育環境の充実した多くの病院と連携を組んでいます．兵庫県内では兵庫県立がんセンター，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，兵庫県立加古川医療センター，加古川中央市民病院，明石医療センター，北播磨総合医療センター，兵庫県立丹波医療センター，甲南医療センター，神戸赤十字病院，神戸労災病院，赤穂市民病院，三田市民病院，神戸市立医療センター西市民病院，県外では大阪府の北野病院，淀川キリスト教病院，高槻病院，済生会中津病院，奈良県の奈良県総合医療センター，岡山県の倉敷中央病院，福島県の総合南東北病院などと連携しています．いずれも各医療圏の地域基幹病院として高度な医療を担っている病院です．さらに，神戸大学医学部附属病院，徳島大学病院，昭和医科大学病院などの大学病院本院や昭和医科大学藤が丘病院，昭和医科大学横浜市北部病院，昭和医科大学江東豊洲病院といった大学関連病院群とも連携しています．

当センターの研修プログラムでは，様々な将来像を描く各内科専攻医の要望に答え，しっかりとした医師としての基礎を築けるように，教育環境の充実した多くの病院と連携を組んでいます．地域基幹病院では，患者の生活に根ざした地域医療を経験でき，高次機能・専門病院，または大学病院では，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけ，希少疾患の診療や最先端の高度専門医療に触れることが可能です．このような連携を組むことで，当センターでの「実戦的で疾患群に偏りのない幅広い内科臨床研修」はより強化され，1次救急から3次救急，急性期から慢性期，コモンディジーズから希少疾患，そして，日常診療から高度専門医療に至るまで，豊富な臨床経験が積めるようになります．

2）専門研修施設（連携施設）の選択

専攻医の希望により，初年度に連携施設を決定します．可能な限り自由に選択ができるように配慮し，研修の進展度に留意しながら flexible に対応します．なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能ですが，個々人により異なります．

3）専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群は，兵庫県淡路医療圏，近隣医療圏および兵庫県,大阪府,奈良県，東京都,神奈川県,徳島県，岡山県，福島県の医療機関から構成していますが，兵庫県立がんセンターと神戸大学医学部附属病院以外は，実質的に淡路島の官舎からの通勤は困難であり，勤務地の近隣に住居を確保する必要があります．官舎の使用や住居費の補助については病院ごとに異なりますので，適宜確認していただく必要があります．中間地に居住することで，1年間に2-3つの連携病院を選択することは可能です．

4）専門研修基幹施設

兵庫県立淡路医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ハラスメント委員会が兵庫県立淡路医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 13 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修・研究センター2019 年度に設置. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（淡路循環器病研究会，救急・集中治療セミナー，淡路医師会勉強会，消化器病症例検討会など；2023 年度実績 11 回,2024 年度実績 7 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績1回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 11 体，2023 年度実績 7 体，2024 年度実績 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 6 回，2024 年度実績 6 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 6 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 1 演題，2024 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	奥田　正則 【内科専攻医へのメッセージ】 　兵庫県立淡路医療センターは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であり，淡路医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力して内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．主担当医として，入院から退院後（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じて，社会的背景や療養環境調整も含めた全人的医療を実践できる内科専門医が到達目標です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会指導医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本呼吸器学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本心血管インターベンション学会専門医1名 日本神経学会指導医 2 名 日本神経学会神経内科専門医2名

	日本老年医学会老年科指導医 1 名 日本老年医学会老年病専門医 1名 日本感染症学会感染症指導医 1 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 293 名(内科系:1日平均) 入院患者 148 名(内科系:1日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本神経学会准教育施設 日本老年学会認定施設 日本脈管学会研修指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設

5）専門研修連携施設

1. 兵庫県立加古川医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 18 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（糖尿病・内分泌内科部長）、プログラム管理者（総合内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回、2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 10 体、2025 年度実績 3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 12 演題、2025 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	田守　義和 【内科専攻医へのメッセージ】 　県立加古川医療センターは、兵庫県の政策医療として東播磨地域の3次救命救急医療を担うと同時に、生活習慣病医療、緩和ケア医療、神経難病医療、感染症医療の充実という役割を担っています。すなわち疾病予防から、生活習慣病にかかわる疾患の急性期医療から慢性期医療、がん医療まで幅広い病態に対応し、さらには終末期医療も行う、という内科としてあらゆる病期ステージに対応しているのが特徴です。肝疾患、消化器疾患については地域の拠点病院として機能していますが、糖尿病・内分泌代謝疾患については兵庫県全域の拠点病院となり、地域のみならず兵庫県全県的なネットワークによる医療連携を実現しています。施設統合によりリウマチ膠原病内科および腎臓内科が稼働を始め、膠原病類縁疾患、腎疾患についても数多くの症例を経験可能です。内科各領域が高度な専門医療を提供している施設であるため、研修達成度によっては期間内に Subspecialty 研修との並行研修も可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本肝臓学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本リウマチ学会専門医 4 名

	日本腎臓学会専門医 2 名 日本病態栄養学会指導医・専門医 1 名 日本肥満学会肥満症指導医・専門医 1 名 日本甲状腺学会専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 300.3 名(内科:1 日平均) 入院患者 97.8 名(内科:1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本透析医学会認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院　ほか

2. 兵庫県立がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修指定病院(協力型)です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・兵庫県会計年度任用職員(常勤医師)として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康なやみ相談室)が, 兵庫県職員健康管理センター内にあります. ・ハラスメント委員会が院内に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています.(休憩室は男女共用) ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です. ・利用時間は、7:30 ～ 18:45(平日のみ)です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 22 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して, 院内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理, 医療安全, 感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, 受講のための時間を確保します.(2025 年度実績:医療安全 6 回、感染対策 3 回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, 受講のための時間を確保します. ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 1 回(腫瘍内科症例)), 専攻医に受講を義務付け, 受講のための時間を確保します. ・地域参加型のカンファレンス(学術講演会)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, 受講のための時間を確保します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科, 消化器, 内分泌, 呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	里内美弥子 【内科専攻医へのメッセージ】 　兵庫県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院及びゲノム医療拠点病院であり, 連携施設としてがんの基礎的, 専門的医療を研修できます. 主担当医として, 入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までを受け持ち, 診断・治療の流れを通じて, 患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医　22 名 日本内科学会総合内科専門医　17 名 日本消化器病学会消化器専門医　15 名 日本循環器学会循環器専門医　1 名 がん薬物療法専門医　10 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　6 名 日本血液学会血液専門医　3 名 日本肝臓学会肝臓専門医　5 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医　5 名 日本消化器内視鏡学会専門医　9 名
外来・入院 患者数	内科系外来患者　203.5 名(2024.4～2025.3 までの 1 日平均) 内科系入院患者　111.6 名(同上)
経験できる疾患群	13 領域のうち, がん専門病院として 7 領域 23 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく, 高齢者にも対応したがん患者の診断, 治療, 緩和ケアなどを通じて, 地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本血液学会認定血液研修認定施設 日本輸血・細胞治療学会認証施設 日本造血・免疫細胞療法学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（基幹施設） 日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本核医学学会専門医教育病院 日本医学放射線学会専門医総合修練機関 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本IVR学会専門医修練施設 日本臨床細胞学会教育研修施設

3. 神戸大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・神戸大学医学部附属病院の医員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があり, ハラスメント委員会も整備されています. ・女性専攻医のための更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 病院職員としての利用が可能です(但し, 数に制限あることと事前に申請が必要です)
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 104 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置し, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年 2 回開催し, 専攻医にも受講を義務付けます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています.
指導責任者	三枝 淳 (腎臓・免疫内科学分野 免疫内科学部門) 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸大学医学部附属病院内科系診療科は, 連携する関連病院と協力して, 内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行っていきます. 医療安全を重視し, 患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき, 医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 104 名 日本内科学会総合内科指導医 65 名 日本消化器病学会消化器病指導医 21 名 日本肝臓学会肝臓指導医 9 名 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医 6 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医指導医 8 名 日本腎臓学会腎臓専門医指導医 8 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医指導医 4 名 日本血液学会血液専門医指導医 7 名 日本神経学会神経内科専門医指導医 7 名 日本アレルギー学会専門医指導医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医指導医 10 名 日本感染症学会感染症専門医指導医 4 名 日本救急医学会救急科専門医指導医 2 名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 延べ数 12,243 名 実数 2,540 名(内科のみの 1 ヶ月平均) 入院患者 延べ数 7,593 名 実数 646 名(内科のみの 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができますが, 短期間なので希望により研修科を選択いただきます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できますし, 大学病院ならではの専門・最先端医療も経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会総合内科専門医認定教育施設 日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院 日本消化器病学会消化器病専門医認定施設

	日本循環器学会循環器専門医研修 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本血液学会血液専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会感染症専門医研修施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本神経学会神経内科専門医教育施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施

4. 神戸労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ・研修中は, 原則神戸労災病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されます. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課)があり, ハラスメント委員会も整備されています. ・女性専攻医のための更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地外に契約保育所があり, 病院職員としての利用が可能です(但し, 数に制限あることと事前に申請が必要です).
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています. ・医師臨床研修管理委員会を設置し, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医にも受講を義務付けます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており, 専攻医に特定数以上の受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題の学会発表をしています.
指導責任者	佐藤 稔 (総合内科) 【内科専攻医へのメッセージ】 臨床医には, 心(Humanity: 豊かな人間性), 技(Art:臨床技能), 知(Physician Scientist: 科学的思考能力)の三者が求められています. 神戸労災病院では, 個々の症例において, そこで起こっていることを丁寧に科学的に考察していきながら, ひとり一人の患者さんやその家族に真剣に向き合うことが, 心技体の体得に重要であるとの認識を持ち, 研修医指導にあたっています. また, 医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会専門医 7 名 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 日本循環器学会専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 4 名 日本呼吸器学会専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 3,402 名(内科のみの 1 か月平均) 入院患者 3,015 名(内科のみの 1 か月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができますが,希望により研修科を選択いただきます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが, 内科医にとって必須である地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設

	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設

5. 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 46 名在籍しています(下記) ・内科専門研修連携施設研修管理委員会にて、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績:医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 2 回、2025 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど)を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能です。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2024 年度 2 体、2025 年度 9 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2023 年度実績 5 演題、2024 年度実績 7 演題)をしています。
指導責任者	大内 佐智子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで☒経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。 当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます. 救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。 すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 46 名 日本内科学会内科専門医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 38 名 日本内科学会認定内科医 42 名 日本循環器学会循環器専門医 17 名 日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名 日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名 日本消化器病学会専門医 9 名・指導医 5 名 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名・指導医 6 名 日本肝臓学会専門医 5 名・指導医 1 名 日本腎臓学会専門医 3 名・指導医 2 名 日本透析医学会専門医 2 名・指導医 1 名 日本呼吸器学会専門医 4 名

	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名・指導医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本緩和医療学会専門医 1 名・指導医 1 名 ほか
外来・入院 患者数	内科系診療科外来患者 12,363 名(2025 年度 1 ヶ月平均) 内科系診療科入院患者 9,140 名(2025 年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域のうち, 循環器, 神経, 代謝領域を重点的に経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	循環器や神経, 代謝疾患の急性期医療だけでなく, リハビリテーションや慢性期の治療, 緩和ケアなどを通じて地域医療・病診連携・病病連携を経験することができます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本病院総合診療医学会認定基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本核医学学会専門医教育病院 心エコー図専門医制度研修施設 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本心臓リハビリテーション認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設 ペースメーカ移植術認定施設 埋込型除細動器移植術認定施設 両心室ペースメーカ移植術認定施設 両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設 経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)認定施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設 MitraClip 実施施設 WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設 PFO 閉鎖術実施施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 植込み型 VAD 管理施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター(PSC)コア施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会連携施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設) 日本血液学会専門研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本緩和医療学会基幹施設、ほか

6. 明石医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・明石医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 （申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します）
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間 4 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 ・レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。 ・症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。
指導責任者	中島　隆弘 【内科専攻医へのメッセージ】 　明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています. 専門内科（呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科）および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です. 2019 年度から救急科専門医が赴任し、コモンディジーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました. 外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています. 症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本循環器学会専門医 7 名 日本呼吸器学会専門医 5 名 日本消化器病学会専門医 8 名 日本消化器内視鏡学会専門 9 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 4 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 3 名 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本腎臓学会専門医 2 名 日本透析医学会専門医 2 名

	日本糖尿病学会専門医 1 名 日本内分泌代謝科専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 7,485 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 6,784 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本透析医学会専門医教育関連施設 社団法人日本感染症学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設、 一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設(呼吸器内科)など

7. 加古川中央市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・加古川中央市民病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事部)があります. ・ハラスメント委員会が人事部に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 43 名在籍しています. ・研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し(各複数回開催), 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設が定期的に主催する研修施設群合同カンファレンスに参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(実績:2024 年度 10 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し(東播磨地域ネットワーク研究会→年 3 回, 循環器懇話会→年 2 回中 1 回カンファレンス形式開催, 在宅連携事例検討会→年 3 回 他), 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催しています. ・臨床研究・治験センターを設置しています. また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	西澤　昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 　加古川中央市民病院は 600 床を有する総合病院で, 充実した診療科を揃えて地域の急性期医療を担う中心的存在となっています. 各内科領域の専門医が多く在籍しているため内科専門医・サブスペシャリティ専門医資格取得への質の高い研修ができます. 救急診療, 高度専門診療のみならず, 一般的な内科診療も経験でき, 内科医としての総合力が身につきます. 勉強会に参加する機会も多く, 自身の専門領域以外の知識も深めることができます. 研修期間中に参加が必須とされる各種講習会(感染, 医療安全, 医療倫理)も定期的に開催しており, 受講ができます. 　また, 地域医療を担う一医師として, 患者さんのみならず, 院内スタッフ・周辺医療施設の医療従事者にも信頼されるよう頑張ってほしいと思います.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 43 名 日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名 日本循環器学会循環器専門医 17 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名ほか(以上内科所属に於いて)
外来・入院 患者数	外来患者 1523.82 名(1 日平均) 入院患者 538.59 名(1 日平均)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本アレルギー学会教育施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本動脈硬化学会専門医制度教育施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会准教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 など

8. 北播磨総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・北播磨総合医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント防止委員会が設置されており、各種ハラスメントに対処しています。 ・メンタルストレスについては、経営管理課が窓口となり、院内に臨床心理士及び産業医を配置し対処しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所があり、平日 8 時から 18 時は病児保育にも対応しています。 ・宿舎は、病院敷地内宿舎若しくは三木市・小野市エリアで、単身用借上宿舎の提供又は住居手当による対応を予定しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています。(下記) ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、(総合内科専門医かつ指導医))にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設に研修する専攻医の専門研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(北播磨総合内科セミナー、北播磨消化器循環器連携懇話会、北播磨病診連携講演会、北播磨 Vascular Meeting など)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(毎年度 1 回開催予定)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などの環境を整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催(2024 年度実績 9 回, 2025 年度実績 9 回)しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表を行っています. ・学術集会への参加を奨励し, 参加費・出張旅費を支給しています.
指導責任者	安友　佳朗 【内科専攻医へのメッセージ】 　北播磨総合医療センターは、「患者にとって医療機能が充実し、安心して医療を受けられること」また「医師、技師、看護師などの医療人にとって人材育成能力が高く、やりがいがあり、働き続けられる環境であること」など、「患者にとっても、医療人にとっても魅力ある病院となること」を目指して 2013 年 10 月に開院した病院です。 　教育熱心な指導医のもと内科全般の主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を病院全体で支えます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 24 名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会認定循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名・日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名

	日本感染症学会感染症専門医 2 名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 1,014.5 名(1 日平均) 入院患者 334.9 名(1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本病院総合診療医学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本内分泌学会認定教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本肺癌学会教育認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 経皮的僧弁接合不全修復システム実施施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 経カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設 日本脈管学会研修指定施設 日本感染症学会研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本胆道学会指導施設 日本炎症性腸疾患学会専門医制度 IBD 指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設 日本血栓止血学会認定医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本リウマチ学会リウマチ教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関 日本核医学会専門医教育病院 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 画像診断管理認証施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 病院総合医育成プログラム認定施設 輸血機能評価認定制度(I&A)認証施設 日本脳ドック学会施設認定 日本緩和医療学会認定研修施設 日本禁煙学会教育施設

9. 兵庫県立丹波医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・スキルスラボが整備されています. ・地域医療教育センターが設置され, 神戸大学からの特命教授等による教育が受けられます. ・兵庫県職員(会計年度任用職員)医師として労務環境が保障されています. ・メンター制度を整備しています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康なやみ相談室)が兵庫県職員健康管理センター内にあります. ・産業医, 公認心理師と面談(希望者)ができる制度があり, 利用可能です. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に保育所があり, 利用可能です. ・宿舎は, 当院近辺で, 単身用借上宿舎を提供しています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(院長)、プログラム管理者(副院長)(総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績各 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・TV 会議システムを用いた神戸大学病院等との合同カンファレンスを開催しています。 ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(オープンセミナー、地域医療連携懇談会、地域医療連携症例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2020 年度開催実績 1 回)や ICLS 受講(2025 年度開催実績 2 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します。 ・特別連携施設(丹波市健康センターミルネ診療所)の専門研修では、週 1 回の面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2025 年度実績 5 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し, 定期的に開催しています. ・治験審査委員会を設置し, 定期的に開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 9 演題)をしています.
指導責任者	河﨑 悟 【内科専攻医へのメッセージ】 県立丹波医療センターの内科は米国型 GIM の体制で運営されていること, さらに緩和ケア病棟をもつことが大きな特徴です. 臓器別内科ローテートとは違う研修が受けられます. 内科指導医は非常に教育のマインドが強く, また神戸大学からの教育支援をこれほど受けている病院は他にはありません. ジェネラルなマインドをもった内科専門医になることができます.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会内視鏡指導医 1 名

	日本消化管学会指導医 1 名･日本肝臓学会暫定指導医 1 名 日本消化管学会指導医 1 名 日本腎臓学会指導医 1 名 日本老年医学会老年科指導医 1 名 日本緩和医療学会緩和医療指導医 1 名 日本呼吸器学会指導医 1 名 日本神経学会指導医 1 名 日本認知症学会指導医 1 名 日本脳卒中学会指導医 1 名ほか
外来･入院 患者数	外来患者 181.6 名(1 日平均) 入院患者 165.9 名(1 日平均)※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，44疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療･診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診･病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本病院総合診療医学会認定施設　など

10. 徳島大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院である. ・施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されている. ・適切な労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる. ・ハラスメントについては, 職員相談室を設置している. ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室や更衣室等が配慮されている. ・隰地内外を問わず保育施設等が利用可能である.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 47 名在籍している. ・研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えている. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えている. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付けている. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えている.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全て(総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病及び類縁疾患, 感染症, 救急)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている.
指導責任者	松岡　賢市(血液内科 科長) 【内科専攻医へのメッセージ】 　徳島大学病院は, 徳島県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っている. 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して, 質の高い内科医を育成するものである. また単に内科医を養成するだけでなく, 医療安全を重視し, 患者本位の医療サービスが提供でき, 医学の進歩に貢献し, 日本の医療を担える医師を育成することを目的とする.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 47 名, 日本内科学会総合内科専門医 51 名 , 日本消化器病学会消化器病専門医 22 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 13 名 , 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 7 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名, 日本血液学会血液専門医 10 名, 日本神経学会神経内科専門医 11 名, 日本アレルギー学会アレルギー専門医 4 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名 , 日本感染症学会感染症専門医 1 名, 日本老年医学会老年病専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 19 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 9 名　ほか
外来・入院 患者数 (年間)2023 年度	総外来患者(延数)367,257 人うち内科 112,627 人(1 ヶ月平均 9,386 人) 総入院患者数(延数)200,387 人うち内科 58,027 人(1 ヶ月平均 4,836 人)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができる.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる.
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく, 超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経

診療連携	験可能である.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本認知症学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 など

11. 甲南医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(院内　心の相談窓口・公認心理師/臨床心理士)があります。 ・ハラスメント委員会が(職員暴言・暴力担当窓口)が甲南医療センター内に(総務部、安全衛生課)設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 28 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置し, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に開催し, 医療倫理講習会(2025 年度 1 回), 医療安全講習会(2025 年度 15 回), 感染対策講習会(2025 年度 3 回)を開催し専攻医にも受講を義務付けます. ・CPC を定期的に開催し(2025 年度 3 回), 専攻医に受講を義務付け, そのため時間的余裕を与えます. ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており専攻医に特定数以上の受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2025 年度 3 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、教育研修センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしており、関連学会での発表も定期的に行っています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	小別所　博 （脳神経内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 　甲南病院は 1934 年に眺望のすばらしい阪急御影の山手に開院され、以後地域の基幹病院として地域医療に貢献してきました。 　建物の老朽化もあり 2017 年より建て替え工事がはじまり、1 期工事の終了した 2019 年 10 月より六甲アイランド病院と統合され、甲南医療センターとして新しい一歩を踏み出しました。2022 年春には 2 期工事が完工しグランドオープンを迎えました。 　中でも救急医療はこれまで以上に力を入れ、年間約 6000 台(1 日平均 17 台)の救急車を受け入れています。 　2023 年 4 月より神戸大学から内科的思考に優れた救急専門医を迎え入れ、現在では常勤医 3 名となり、救急医療だけでなく集中医療の指導体制も整いました。 　ハード面でもソフト面でも新しくなった当院で是非いっしょに内科専門研修をスタートさせましょう。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 28 名 日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 12 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本臨床腫瘍学会腫瘍専門医 1 名

	日本緩和医療学会専門医 2 名ほか
外来・入院 患者数	(病院全体)外来患者 17,233 名(1 ヶ月あたり)入院患者 10,922 名(1 ヶ月あたり) (内科全体)外来患者 6,883 名(1 ヶ月あたり)入院患者 5,743 名(1 ヶ月あたり)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の大部分の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが, 内科医にとって必須である地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本緩和医療学会基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設) 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定連携施設(基幹病院:神大病院) 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

12. 北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内には職員食堂があり、宿日直時は食事補助があります。（昼食・夜食：弁当支給、朝食：院内のコーヒーショップの食券を配布） ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、当直室を整備しています。 ・院内保育所があり、病児保育も利用可能です。院内保育所利用者に限り自動車通勤が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 13 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	内科指導医 13名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器病専門医4名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医4名 日本循環器学会循環器専門医7名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医4名 日本透析医学会専門医4名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 5 名

	日本神経学会神経内科専門医 5 名 日本アレルギー学会専門医(内科)2 名 日本リウマチ学会専門医3名 日本感染症学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医3名など
外来・入院 患者数	外来:1,641.8 名(全科 1 日平均:2025 年度実績) 入院:200,616 名(全科 2025 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

13. 昭和医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人権啓発推進室)があります. ・ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和医科大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 70 名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全ての領域, 総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	相良 博典 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は 8 つの附属病院を有し, 東京都内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して, 質の高い内科医を育成するものです. また単に内科医を養成するだけでなく, 医療安全を重視し, 患者本位の医療サービスが提供でき, 医学の進歩に貢献し, 日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定内科医 81 名 日本内科学会総合内科専門医 49 名 日本専門医機構認定内科専門医 46 名 日本消化器病学会消化器専門医 23 名 日本循環器学会専門医 25 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 8 名 日本腎臓病学会専門医 9 名 日本呼吸器学会専門医 26 名 日本血液学会専門医 7 名 日本神経学会専門医 16 名 日本アレルギー学会専門医(内科)11 名 日本リウマチ学会専門医 6 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 10 名 日本老年医学会専門医 4 名
外来・入院 患者数	外来:1925.0 人 入院: 859.7 人 (2025 年度 ― 日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験

診療連携	できます.
学会認定施設 (内科系)	(病院全体) 日本内科学会認定 日本内科学会認定施設 一般社団法人日本アレルギー学会認定 アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会認定 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本緩和医療薬学会認定 緩和医療専門薬剤師研修施設 日本救急医学会認定 日本救急医学会指導医指定施設 一般社団法人 日本血液学会認定 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器学会認定 呼吸器専門医研修プログラム 日本呼吸器内視鏡学会認定 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸療法医学会認定 呼吸療法専門医研修施設 日本集中治療医学会認定 日本集中治療医学会 専門医研修施設 日本循環器学会認定 日本循環器学会 専門医研修施設 日本循環器学会認定 左心耳閉鎖システム実施施設 日本循環器学会認定 トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダゲル導入認定施設 日本消化管学会認定 胃腸科専門医制度 指導施設 日本消化器内視鏡学会認定 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会認定 日本腎臓学会認定教育施設 日本腎臓学会(公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク)認定 腎臓移植施設資格 日本頭痛学会認定 日本頭痛学会認定教育施設 日本透析医学会認定 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定 日本糖尿病学会認定教育施設 日本動脈硬化学会認定 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 日本内分泌学会認定 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本認知症学会認定 日本認知症学会専門医教育施設 日本不整脈心電学会認定 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定 パワードシースによる経静脈的リード抜去術 認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会 昭和医科大学総合診療・家庭医療専門プログラム 日本脈管学会認定 日本脈管学会認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本リウマチ学会認定 教育施設 日本リハビリテーション医学会認定 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本老年医学会認定 日本老年医学会認定施設 補助人工心臓治療関連学会協議会認定 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会認定 臨床遺伝専門医制度研修施設 日本臨床腫瘍薬学会認定 がん診療病院連携研修病院 特定非営利活動法人 成人白血病治療共同研究機構認定 JALSG(成人白血病治療共同研究機構)施設会員 一般社団法人日本睡眠学会認定 日本睡眠学会専門医認定医療機関 A 型 一般社団法人日本心エコー図学会認定 日本心エコー図学会認定研修施設 一般社団法人日本循環器学会認定 BPA(balloon pulmonary angioplasty)指導施設 一般社団法人日本循環器学会認定 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 一般社団法人日本不整脈心電学会認定 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術クライオバルーン(Arctic Front Advance)認定施設 日本緩和医療薬学会認定 地域緩和ケアネットワーク研修施設 一般社団法人日本カプセル内視鏡学会認定 日本カプセル内視鏡学会指導施設 一般社団法人日本肝臓学会認定 一般社団法人日本肝臓学会認定施設 特定非営利活動法人日本緩和医療学会認定 特定非営利活動法人日本緩和医療学会認定研修施設 特定日愛理活動法人日本心臓リハビリテーション学会認定 研修施設認定証 日本神経学会認定日本神経学会専門医教育施設 一般社団法人日本肥満学会認定 認定肥満症専門病院 日本高血圧学会認定 高血圧認定研修施設 東京都区部災害時透析医療ネットワーク認定 東京都区部災害時透析医療ネットワーク会員施設

14. 昭和医科大学藤が丘病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和大学に整備されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専門研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付けます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科を除く, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	井上　嘉彦 【内科専攻医へのメッセージ】 　昭和医科大学は 8 つの附属病院及び 1 施設を有し, 神奈川県・東京都を中心に近隣医療圏の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して, 質の高い内科医を育成するものです. また単に内科医を養成するだけでなく, 医療安全を重視し, 患者本位の医療サービスが提供でき, 医学の進歩に貢献し, 日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 (常勤医)	内科指導医 29 名 総合内科専門医 35 名
外来・入院 患者数	外来:941.9 人 入院:507.6 人（2025 年度一日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, J-OSLER(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 少なくとも通算で 56 疾患群, 160 症例以上を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設 日本甲状腺学会専門医制度における認定専門医施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本腎臓学会研修施設

	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設

15. 昭和医科大学横浜市北部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・昭和医科大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります. ・女性医師が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室などが整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています(J-OSLER 登録済人数 下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策などの講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付けます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群あるいは地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科を除く, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	緒方 浩顕 (内科研修プログラム統括責任者) 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は東京都・神奈川県内に 8 つの附属病院及び 1 施設を有し, それらの病院が有機的に連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは 臨床研修修了後に大学各附属病院および連携施設の内科系診療科が連携して, 質の高い内科医を育成することを目的としたものです. また単に内科医を養成するだけでなく, 医療安全を重視し, 患者本位の医療サービスが提供でき, 医学の進歩に貢献し, 最良で最先端の医療を担える医師を育成することを目的とするものです. 是非 このような研修環境を利用し 自らのキャリア形成の一助としてほしいと思います.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定内科医 45 名 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 循環器学会循環器専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名 日本腎臓病学会専門医 8 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医(内科) 2 名 日本高血圧学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名 日本肝臓病学会専門医 4 名 日本透析医学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 3 名
外来・入院 患者数	外来:1,136.2 人 入院: 597.6 人 (2025 年度 一日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 11 領域, 59 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会 認定施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本アレルギー学会 認定教育施設 日本アフェレシス学会 認定施設

	日本消化器病学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　専門医制度指導施設 日本心血管インターベンション学会　研修施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本神経学会　専門医制度教育施設 日本腎臓学会　研修施設 日本透析医学会　専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会　研修施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会　栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設 日本高血圧学会認定　研修施設 日本静脈経腸栄養学会　NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会　NST 稼働施設 日本緩和医療学会　認定研修施設 日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会　専門医制度認定施設　など

16. 昭和医科大学江東豊洲病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院である. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・労務環境が保障されている(衛生管理者による院内巡視・週 1 回). ・メンタルストレスに適切に対処する部署(管理課職員担当), 人権啓発推進委員会がある. ・監査・コンプライアンス室が昭和大学本部に整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されている.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 23 名在籍している(下記). ・内科研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える. ・地域参加型のカンファレンス(消化器病研究会, 循環器内科研究会, Stroke Neurologist 研究会, 関節リウマチ研究会, 腎疾患研修会)などを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科, 消化器, 循環器, 呼吸器, 神経, 腎臓, 感染症, アレルギー, 代謝, 膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している.
指導責任者	伊藤　敬義 【内科専攻医へのメッセージ】 　昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター, 消化器センター, 脳血管センター, 救急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり, 連携施設として循環器, 消化器, 神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての診断と治療の基礎から, より専門的医療を研修できます. 循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から, 慢性期の心不全の管理まで対応できます. 消化器に関しては, 食道, 胃, 大腸などの消化管疾患および肝胆膵疾患などを幅広く経験できます. 神経疾患は特に脳血管疾患の急性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを研修できます. 呼吸器疾患に関しては, 感染症, 肺癌など腫瘍性疾患, 間質性肺疾患, 気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して症例を有しております. リウマチ・膠原病疾患なども入院・外来にて多くの症例を経験できます. また総合内科・救急疾患としての症例も豊富でありさまざまな疾患に対応できます. また, 専門医療のみではなく, 主担当医として, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力を入れています. また全国に連携施設を持っており, 充実した専攻医研修が可能です.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名 日本不整脈心電図学会専門医 1 名 日本心臓病学会専門医 2 名 日本超音波学会認定超音波専門医 1 名 日本消化器病学会専門医 18 名 日本消化器内視鏡学会専門医 15 名 日本消化管学会胃腸科専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 10 名 日本ヘリコバクター学会 H.pylori 感染症認定医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本脳卒中学会専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 2 名

	日本透析医学会専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医(内科)2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 日本がん治療認定医機構認定医 4 名 日本臨床薬理学会専門医 2 名 ほか
外来・入院 患者数	外来 542.6 人 入院 328.6 人（2025 年度一日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．血液，感染症，救急の領域に関しても，本学附属病院及び連携施設を研修することで経験できます．
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に循環器および消化器領域においては，より高度な専門技術も習得することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育施設「大学病院」 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本高血圧学会認定施設 日本アフェレシス学会施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本肝臓学会認定施設　など

17. 奈良県総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・有期専門職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、月に1度メンタルヘルス相談会が開催されています. ・ハラスメント防止委員会が奈良県総合医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています(下記). ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者・プログラム管理者:副院長兼感染症内科部長, 専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度に移行)にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修医支援室(2015 年度設置済)を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会(ICT 勉強会)を定期的に開催(2025 年度実績:医療安全講習会 2 回, 感染対策講習会(ICT 勉強会)7 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し, 専攻医に 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:奈良県総合医療センター病診・病病連携医療講座:13 回開催. 集学的がん治療勉強会:4 回開催,緩和ケア勉強会 1 回)を定期的に開催し, 専攻医 に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修支援室が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記). ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記). ・専門研修に必要な剖検(2025 年度 7 体、2024 年度 9 体,2023 年度9体、2022 年度 3 体、2021 年度 7 体、2020 年度 8 体、2019 年度 12 体, 2018 年度実績 15 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催(2025 年度実績 11 回)しています. ・治験管理室を設置し, 定期的に受託研究審査会を開催(2025 年度実績 11 回) しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	前田 光一 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県総合医療センターは, 奈良県北和医療圏の中心的な急性期病院であり, 近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い, 必要に応じた可塑性のある, 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として, 入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8 名 日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 8 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名

	日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 11 名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 1,296 名(1 日平均) 入院患者 440 名(1 日平均) ※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

18. 神戸赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(心療内科)があります. ・ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・女性医師が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者, プログラム管理者, プログラム管理委員会委員長)にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務づけ, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し, 専攻医に受講を義務づけ, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務づけ, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(HAT 呼吸器疾患検討会等)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務づけ, そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(すくなくても 35 以上の疾患群)について研修できます. ・専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催しています. ・治験管理委員会を設置し, 随時受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2017 年実績 15 演題)をしています.
指導責任者	土井 智文 副院長 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸赤十字病院は兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であり, 西播医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い, 必要に応じた可塑性のある, 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として, 入院から退院まで啓示的に, 診断・治療の流れを通じて, 社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 (常勤医)	内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医2名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本臨床神経生理学会専門医 1 名 日本脳卒中学会専門医 1 名 日本認知症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院 患者数	外来患者 511.0 名(前年度 1 日平均患者数) 入院患者 241.3 名(前年度 1 日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医 療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など （令和4年3月現在）

19. 淀川キリスト教病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます. ・淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(メンタルヘルス推進課)があります. ・ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,利用可能です. また院内で病児保育の利用も可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています(下記). ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者:総合内科専門医かつ指導医)にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 7 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(2025 年度実績 12 回)を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講(2025 年度開催実績 1 回:受講者 9 名)を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2025 年度 5 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室, 資料作成室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催(2025 年度実績 11 回)しています. ・治験審査委員会を設置し, 定期的に開催(2025 年度実績 6 回)しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 14 演題)をしています.
指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか. 内科の基礎をしっかり学びたい方もいれば, 早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう. 将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です. 淀川キリスト教病院内科プログラムでは, 一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します. 当院は, 全人医療を理念とし, 幅広い診療科と高度な医療機器を備え, 大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です. 年間 7000 件前後の救急搬送実績があります. 11 科からなる内科には, 将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています. これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができること, さらにそれぞれの内科で subspecialty との並行研修ができ, 切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です. また, 地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています. プログラムでは, 内科医に不可欠な知識や技能, 態度, 問題解決方法に加え, 将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています. 質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしています.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 29 名 日本内科学会総合内科専門医 35 名

	日本消化器病学会消化器専門医 11 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名 日本血液学会認定血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名 日本アレルギー学会専門医 6 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 がん薬物療法専門医 2 名 日本感染症学会 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10271 名（2025 年度平均延数／月） 新入院患者 512 名（2025 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です．
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

20. 総合南東北病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・総合南東北病院専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・病児保育, 病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 10 名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 消化器, 循環器, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	金子 知香子 （脳神経内科 科長） 【内科専攻医へのメッセージ】 若い時に出来るだけたくさんの症例を経験してください. 守備範囲を決めるのは自分自身です. 当院は軽症例から重症例まで幅広く経験することができます. 医師不足に悩む地方都市の中核病院であり, 症例や手技の取りあいはありません. 臨床の出来ない医師にならないように, 臨床の基礎から難病・重症例の対応まで丁寧に指導します. 脳神経内科では脳卒中, 神経免疫疾患, 神経変性疾患, 神経感染症, 神経筋疾患など神経救急から慢性期まですべてを経験できます. グル-プ制ではないため多種類の疾患を同時に経験する事も可能です. 福島県立医科大学名誉教授である山本悌司先生, 現:福島県立医科大学医学部多発性硬化症治学講座・藤原一男教授が在籍され, 系統だった神経診察の指導, 学会発表・研究・論文指導をしています. 若い時の 3 年間は貴重です. 臨床経験を積んだ後, 大学院進学, また修練のための他院への移動など, 様々な進路にも柔軟に対応できる病院です. 出産・育児・介護, また自分自身の病気といったライフ・イベントへのサポート体制も整っています. 臨床医を目指す方, 大学に進む研究テーマを探している方, ぜひ貴重な 3 年間で一緒に研鑽を積みましょう.
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本消化管学会胃腸科専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本消化器病学会消化器病専門医 8 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本救急医学会救急科専門医 4 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 3 名
外来・入院 患者数	外来患者数:478,314 名(1 年・延人数) 入院患者数:181,378 名(1 年・延人数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 等

21. 高槻病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・愛仁会高槻病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(精神科医師担当)があります. ・ハラスメント委員会が管理科に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・病院に隣接して院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています. ・愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者, プログラム管理者ともに総合内科専門医かつ指導医:2016 年度設置) が連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります. ・愛仁会高槻病院内において研修する専攻医の研修を管理する愛仁会高槻病院内科専門研修委員会は 2016 年度に設置され, 愛仁会高槻病院臨床研修センター(全診療科)を中心に活動しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績:医療倫理 1 回, 医療安全 2 回, 感染対策 2 回)し, 専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 8 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に愛仁会高槻病院臨床研修センター(2016 年度設置)が対応します. ・特別連携施設(愛仁会しんあいクリニック・井上病院)の専門研修では, 愛仁会高槻病院の指導医が面談・カンファレンスなどにより, その施設での研修指導管理を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(24 年度 6 件、23 年度 3 件、22 年度 6 件、21 年度 4 件、20 年度 9 件、19 年度 6 件、18 年度 20 体、17 年度 13 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し、迅速審査を開催(2023 年度実績 12 回、2024 年度実績 12 回、2025 年度実績 12 回)しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	中島 健爾 【内科専攻医へのメッセージ】 愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムは、大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院である愛仁会高槻病院で豊富なコモンディジーズ・救急症例を中心に研修します。連携施設が多く、Subspecialty 重視のコースも、総合内科的なコンピテンシーを強化したいコースも提供できます。 いずれも主担当医として入院から退院まで経時的に治療と療養環境調整の実践を修得し、今後の社会のニーズに合致したジェネラルなマインドを持った内科専門医の養成を目指しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名 日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 11 名

	日本糖尿病学会専門医　2 名 日本腎臓学会専門医　1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　5 名 日本神経学会神経内科専門医　3 名 日本内分泌学会専門医　1 名 日本不整脈心電学会専門医　2 名　ほか
外来・入院 患者数	年間入院患者実数　5,589 名 1 日平均外来患者数　337.8 名 年間新外来患者数　4,478 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本大腸肛門病学会関連施設認定 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会 不整脈専門医研修施設日本肺癌学会教育認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

22. 赤穂市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・赤穂市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・職員安全衛生委員会(ハラスメント委員会)が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 6 名在籍しています(下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 17 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2025 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:東備・西播磨循環器カンファレンス、赤穂市医師会オープンカンファレンス、千種川カンファレンス、2023 年度実績 0 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設(兵庫県災害医療センター)の専門研修では、電話や週 1 回の赤穂市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2022 年実績 3 体、2023 年実績 2 体, 2024 年度実績 5 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、開催しています。 ・臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	高原　典子 【内科専攻医へのメッセージ】 赤穂市民病院は、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、播磨姫路医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 1 名 日本消化管学会専門医 1 名 日本がん治療認定医 3 名

外来・入院 患者数	外来患者 10,671 名(病院全体 1 ヶ月平均延患者数) 入院患者 5,441 名(病院全体 1 ヶ月平均延患者数)　2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会専門医教育関連施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本病理学会専門医研修登録施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本癌治療認定医認定研修施設 など

23. 三田市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・嘱託医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が済生会兵庫県支部に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 8 名在籍しています(別紙). ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(診療部長), プログラム管理者ともに総合内科専門医かつ指導医)にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ・内科専門研修プログラム管理委員会の事務局としてプログラムを運営する臨床研修センターを設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 5 回医療倫理 1, 医療安全 2, 感染対策 2)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2025 年度実績 2 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績1回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(けやき台フォーラム, 六甲北消化器疾患研究会, 北神 IBD カンファレンス, 六甲有馬循環器カンファレンス, 三田循環器ミーティング)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 8 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうち 50 以上の疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2025 年度 2 体)を行っています. ・病床数　300 床
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・臨床倫理委員会を設置し, 開催(2025 年度実績 6 回)しています. ・研究倫理審査委員会を設置し, 定期的に受託研究の審査(2025 年度実績 0 回)をしています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2025 年度実績3演題)をしています.
指導責任者	診療部長・消化器内科部長　田中　秀憲 【内科専攻医へのメッセージ】 三田市民病院は, 三田市唯一の急性期総合病院で, 人口約 20 万人の北摂三田地域とさらに北部の広域を含めた地域の中核病院として, 日常良く遭遇する一般的な疾病から高度な医療を必要とする疾病まで多彩な症例を短期間で経験することができます. 中規模病院の特性として各診療科間の垣根がなく, 各科の協力連携のもとに有意義な研修を行っています. 当研修プログラムは, それぞれ特異的な連携施設群から構成され, 当院で充足できない研修については強力な連携施設群で補う万全の体制を敷いています. 近代的なニュータウンと自然豊かな田園風景の二つの顔を併せ持つ田園都市という抜群の環境での研修生活が待っています. また済生会兵庫県病院との統合による新病院は令和 9 年から令和 12 年にかけて建築工事を行い令和 12 年に開院予定です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本肝臓学会暫定指導医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医1名

	日本内分泌学会専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者数人 4,312 人(1ヶ月延数平均) 入院患者人(1ヶ月延数平均)372 人(内科のみ延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70 疾患群のうち 8 領域以上, 50 疾患群以上の症例を幅広く経験することができます. プログラム全体としては, 全領域, 全疾患群の症例を経験できます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本胆道学会指導施設 日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設 など

24. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事部)があります. ・ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 病児保育, 病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 73 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催(年間開催回数:2025 年度 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(年間実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています. 又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 181 演題)
指導責任者	石田 直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 73 名 日本内科学会総合内科専門医 54 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名 日本循環器学会循環器専門医 23 名 日本内分泌学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 10 名 日本腎臓病学会専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名 日本血液学会血液専門医 10 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本アレルギー学会専門医(内科)2 名

	日本リウマチ学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本救急医学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 7 名 日本老年医学会専門医 3 名 臨床腫瘍学会 4 名 消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者延べ数 271,235 人/年（2024 年度実績） 入院患者数 12,838 人/年（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

25. 神戸市立医療センター西市民病院,

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構(以下、「機構」という)の任期付職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため、臨床心理士を中心とした心理カウンセラー等の専門スタッフに相談ができる窓口を設置しています。 ・ハラスメント委員会が機構内に整備されており、ハラスメントに関する相談・被害を申し出ることができる窓口を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、院内保育所、病児保育室、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・利用可能な院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています(下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(診療部長), プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医))にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 12 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 10 回)し専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・地域参加型のカンファレンス(2025 年度実績 27 回)を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します ・特別連携施設の専門研修では, 電話や週 1 回の西市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記) ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記) ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 10 体、2024 年度 6 体、2025 年度 12 体)を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています ・倫理委員会、倫理問題検討委員会を設置し定期的に開催しています ・治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催(2025 年度実績 12 回)しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 3 演題)をしています
指導責任者	西尾 智尋 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。主担当医として, 救急対応、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本肝臓学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名

	日本腎臓学会腎臓専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 8,247 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 4,983 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 2025 年度実績
病床	358 床(内科系 154 床)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会準教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 など

26. 大阪府済生会中津病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院(基幹型・協力型)です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 25 名、総合内科専門医 23 名 ・内科専門研修プログラム管理委員会:統括責任者(委員長)、臨床教育部部長、各内科系診療科部長などで構成され、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・内科専門研修委員会を設置し、臨床教育部と協働して基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 56 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度 14 体、2020 年度 4 体、2020 年度 9 体、2021 年度 8 体、2022 年度 4 体、2023 年度 6 体、2024 年度 4 体、2025 年度 1 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。IBM 統計ソフトが利用できます。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。 ・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、各々審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	新谷 光世 (内科専門研修プログラム統括責任者) 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、2023 年 1 月から急性期充実加算を取得し、急性期病院としてさらなる充実と発展を遂げるべく努力をしています。2023 年 4 月からは、隣接した大淀地区に大阪北リハビリテーション病院が新たに開院し、従来からの訪問看護ステーション、特別養護老人ホームと合わせ、福祉医療センターとして、入院から退院、療養までの切れ目ない医療福祉サービスを地域に提供していく体制をとっています。専攻医は、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療、退院指導、退院支援を行い、診療行為を通して、全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 25 名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 3 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)1 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名 ほか

外来・入院 患者数	外来延患者：11,657 名（1 ヶ月平均） 新入院患者： 1,163 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある70疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の 症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 など

20. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年4月現在）

兵庫県立淡路医療センター

奥田　正則	（プログラム統括責任者，循環器内科分野責任者）
三宅　達也	（事務局代表）
岩崎　正道	（循環器内科分野責任者，事務局代表）
西　勝久	（委員長，消化器内科分野責任者）
小谷　義一	（プログラム管理者，呼吸器内科分野責任者）
水口　貴雄	（血液・膠原病内科分野責任者）
宮﨑　由道	（脳神経内科分野責任者）
芳野　啓	（糖尿病・内分泌内科分野責任者）
加藤　幸美	（臨床研修・研究センター事務担当）

連携施設担当委員

兵庫県立加古川医療センター	垰本　喜雄
兵庫県立がんセンター	津田　政広
神戸大学医学部附属病院	桂田　直子
神戸労災病院	佐藤　稔
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	大内　佐智子
明石医療センター	米倉　由利子
加古川中央市民病院	西澤　昭彦
北播磨総合医療センター	吉田　明弘
兵庫県立丹波医療センター	河﨑　悟
徳島大学病院	和泉　唯信
甲南医療センター	大久保　英明
北野病院	北野　俊行
昭和医科大学病院	相良　博典
昭和医科大学藤が丘病院	井上　嘉彦
昭和医科大学横浜市北部病院	緒方　浩顕
昭和医科大学江東豊洲病院	伊藤　敬義
奈良県総合医療センター	前田　光一
神戸赤十字病院	川島　邦博
淀川キリスト教病院	阿南　隆洋
総合南東北病院	濱田　晃市
高槻病院	中島　健爾
赤穂市民病院	勝谷　誠
三田市民病院	田中　秀憲
倉敷中央病院	石田　直
神戸市立医療センター西市民病院	西尾　智尋
大阪府済生会中津病院	福沢　公二

オブザーバー

内科専攻医代表１	毛利　祐太郎
内科専攻医代表２	亀山　愛

整備基準 44 に対応

21. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1)　専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，
兵庫県淡路医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム修了後には，兵庫県立淡路医療センター内科施設群専門研修施設群（次頁）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です．

2） 専門研修の期間

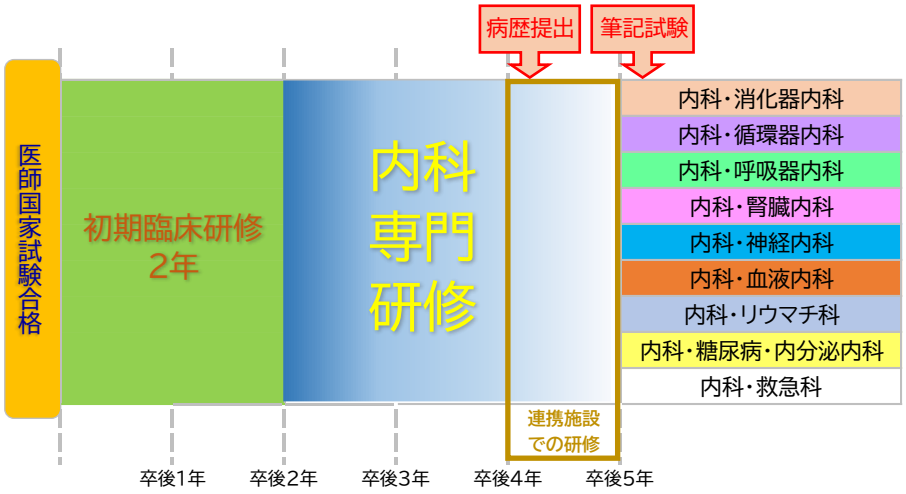


図1. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である兵庫県立淡路医療センター内科で，2年間の専門研修（専攻医）を行います．連携施設での研修は1-3年目のうち，いずれの年度でも可能です．各連携施設での研修は最低で3か月，最高で 12 か月です（図1）．

3） 研修施設群の各施設名（P.16「兵庫県立淡路医療センター研修施設群」参照）

基幹施設	兵庫県立淡路医療センター	
連携施設	兵庫県立加古川医療センター	兵庫県立がんセンター
	神戸大学医学部附属病院	神戸労災病院
	兵庫県立はりま姫路総合医療センター	明石医療センター
	加古川中央市民病院	北播磨総合医療センター
	兵庫県立丹波医療センター	徳島大学病院
	甲南医療センター	北野病院
	昭和医科大学病院	昭和医科大学藤が丘病院
	昭和医科大学横浜市北部病院	昭和医科大学江東豊洲病院
	奈良県総合医療センター	神戸赤十字病院
	淀川キリスト教病院	総合南東北病院
	高槻病院	赤穂市民病院
	三田市民病院	倉敷中央病院
	神戸市立医療センター西市民病院	大阪府済生会中津病院

4） プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.73「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

兵庫県立淡路医療センター内科専門医プログラム指導医名

奥田正則，轟貴史，西勝久，河野孝一朗，宮﨑由道，小谷義一，水口貴雄，垂髪祐樹，今西純一，山下宗一郎，桐生辰徳，谷賢一，芳野啓

5） 各施設での研修内容と期間

専攻医の希望により，初年度に連携施設と研修期間及び研修時期を決定します．可能な限り自由に選択ができるように配慮し，研修の進展度に留意しながら flexible に対応します．なお，研修達成度によってはSubspecialty 研修も可能ですが，個々人により異なります．

6） 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である兵庫県立淡路医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します．兵庫県立淡路医療センターは地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています．

2025 年実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	1,726	22,194
循環器内科	1,671	17,616
血液内科	158	5,708
内科	46	13,174
呼吸器内科	601	8,023
脳神経内科	195	4,175
救急科	0	4,618

＊ 代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，内科入院患者として入院していますので，外来患者診療を含め，1学年 10 名に対し十分な症例を経験可能です．

＊ 令和4年度より，糖尿病・内分泌内科の常勤医が赴任し，29 診療科となりました．

＊ 4領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（P.16「兵庫県立淡路医療センター専門研修施設群」参照）．

＊ 剖検数は 2023 年度 7 体，2024 年度 10 体，2025 年度 7 体です．

7） 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

内科全般を幅広く順次主担当医として担当しますが，希望があれば，研修の進展度によってはSubspecialty の専門研修を取り入れていくことが可能です．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～

退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

入院患者担当の目安

（基幹施設：兵庫県立淡路医療センターでの一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます．

専攻医1人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 10～15 名程度を受持ちます．代謝・内分泌，腎臓，神経，血液・膠原病，感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます．

	専攻医1年目	専攻医2年目
4 月	循環器，血液内科	循環器，血液内科
5 月	循環器，血液内科	循環器，血液内科
6 月	循環器，血液内科	循環器，血液内科
7 月	循環器，血液内科	循環器，血液内科
8 月	呼吸器，血液内科	呼吸器，血液内科
9 月	呼吸器，血液内科	呼吸器，血液内科
10 月	呼吸器，血液内科	呼吸器，血液内科
11 月	呼吸器，血液内科	呼吸器，血液内科
12 月	消化器，血液内科	消化器，血液内科
1 月	消化器，血液内科	消化器，血液内科
2 月	消化器，血液内科	消化器，血液内科
3 月	消化器，血液内科	消化器，血液内科

＊ 1年目の4月に循環器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．8月には退院していない循環器領域の患者とともに，呼吸器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく，主担当医として診療します．研修の進展をみながら，希望により Subspecialty の専門研修を取り入れていきます．

8） 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年8月と2月に自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります．

評価終了後，1か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします．

9） プログラム修了の基準

① J-OSLER を用いて，以下のｉ）～vi）の修了要件を満たすこと．

i） 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表」参照）．

ii） 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています．

iii） 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上あります．

iv） JMECC 受講歴が1回あります．

v） 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会を年に2回以上受講歴があります．

vi） J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます．

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを兵庫県立淡路医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約1か月前に兵庫県立淡路医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります．

10） 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i） 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii） 履歴書

iii） 兵庫県立淡路医療センター内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します．

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります．

11） プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（P.16「兵庫県立淡路医療センター研修施設群」参照）．

12）プログラムの特色

① 本プログラムは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院である兵庫県立淡路医療センターを基幹施設として，各連携施設と協力し，内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間です．

② 兵庫県立淡路医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

③ 基幹施設である兵庫県立淡路医療センターは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます．

④ 基幹施設である兵庫県立淡路医療センターでの2年間（専攻医2年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．そして，専攻医2年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表」参照）．

⑤ 兵庫県立淡路医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修3年間のうちの1年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

⑥ 基幹施設である兵庫県立淡路医療センターでの2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件（「疾患群」「症例数」「病歴提出数」）一覧表」参照）．少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を主担当医として経験し，J-OSLER に登録します．

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

- カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります．
- カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます．

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年8月と2月とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

16）その他

特になし．

整備基準 45 に対応

22. 兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1人の担当指導医(メンター)に専攻医1人が兵庫県立淡路医療センター専門研修プログラム委員会により決定されます.
- 担当指導医は, 専攻医がwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録するので, その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします. この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- 担当指導医は, 専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群, 症例の内容について, 都度, 評価・承認します.
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り, J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修・研究センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します. 専攻医はSubspecialty の上級医と面談し, 専攻医が経験すべき症例について報告・相談します. 担当指導医とSubspecialty の上級医は, 専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう, 主担当医の割り振りを調整します.
- 担当指導医はSubspecialty の上級医と協議し, 知識, 技能の評価を行います.
- 担当指導医は専攻医が専門研修(専攻医)2年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し, 内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し, 形成的な指導を行います.

2) 専門研修の期間

- 年次到達目標は, P.84 別表 1「兵庫県立淡路医療センター内科専門研修修了要件(「疾患群」「症例数」「病歴提出数」)一覧表」に示すとおりです.
- 担当指導医は, 臨床研修・研究センターと協働して, 3 か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し, 専攻医による J-OSLER への記入を促します. また, 各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 担当指導医は, 臨床研修・研究センターと協働して, 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し, 専攻医による病歴要約の作成を促します. また, 各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 担当指導医は, 臨床研修・研究センターと協働して, 6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 担当指導医は, 臨床研修・研究センターと協働して, 毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価, ならびに360 度評価を行います. 評価終了後, 1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い, 形成的

に指導します. 2回目以降は, 以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて, 担当指導医はフィードバックを形成的に行って, 改善を促します.

3） 専門研修の期間

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り, J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います.
- J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて, 当該患者の電子カルテの記載, 退院サマリ作成の内容などを吟味し, 主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし, 担当指導医が承認を行います.
- 主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として, 担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除, 修正などを指導します.

4） J-OSLER の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
- 担当指導医による専攻医の評価, メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
- 専攻医が作成し, 担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け, 指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録, 出席を求められる講習会等の記録について, 各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します. 担当指導医と臨床研修・研究センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
- 担当指導医は, J-OSLER を用いて研修内容を評価し, 修了要件を満たしているかを判断します.

5） 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を, 担当指導医, 施設の研修委員会, およびプログラム管理委員会が閲覧します. 集計結果に基づき, 兵庫県立淡路医療センター専門研修プログラムや指導医, あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6） 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて, 臨時(毎年8月と2月とに予定の他に)で, J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価, 担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を行い, その結果を基に兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い, 専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます. 状況によっては, 担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7） プログラムならびに各施設における指導医の待遇

兵庫県立淡路医療センターおよび各連携施設の給与規定によります.

8） FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.

指導者研修(FD)の実施記録として, J-OSLER を用います.

9） 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり, 指導法の標準化のため, 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し, 形成的に指導します.

10）研修施設群内で何らかの問題が発生し, 施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11）その他

特になし.

別表１兵庫県立淡路医療センター
内科専門研修修了要件(「疾患群」「症例数」「病歴提出数」)一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)		1	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標(研修修了時)	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医２年修了時 目安	80	45	20
専攻医１年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群:修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約:病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ①総合内科:病歴要約は「総合内科Ⅰ(一般)」、「総合内科Ⅱ(高齢者)」、「総合内科(腫瘍)」の異なる領域から１例ずつ計２例提出する。
   ②消化器:疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③内分泌と代謝:それぞれ１症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について:例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を条件とする。

別表2兵庫県立淡路医療センター内科専門研修週間スケジュール(例)

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="5">午前</td><td colspan="5">内科 朝カンファレンス〈各診療科(Subspecialty)〉</td><td rowspan="8" colspan="2">担当患者の病態に 応じた診療 / オンコール / 日.当直 / 講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="3">入院患者診療 / 救命救急センターオンコール</td><td rowspan="3">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">内科外来診療(総合)</td><td rowspan="2">内科検査〈各診療科(Subspecialty)〉</td><td rowspan="2">内科検査〈各診療科(Subspecialty)〉</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査〈各診療科(Subspecialty)〉</td><td>入院患者診療 /救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">内科合同カンファレンス
(内科レクチャー、CPC など)</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>他科との合同カンファレンス</td><td rowspan="2">内科合同カンファレンス
予備日</td><td rowspan="2">救命救急センター / 内科外来診療</td></tr>
<tr><td>講習会など</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

★兵庫県立淡路医療センター内科専門研修プログラム4. 専門知識・専門技能の習得計画に従い, 内科専門研修を実践します.

・上記はあくまでも例:概略です.

・内科および各診療科(Subspecialty)のバランスにより, 担当する業務の曜日, 時間帯は調整・変更されます.

・入院患者診療には, 内科と各診療科(Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます.

・日当直やオンコールなどは, 内科もしくは各診療科(Subspecialty)の当番として担当します.

・地域参加型カンファレンス, 講習会, CPC, 学会などは各々の開催日に参加します.